

# 小学校理科教育パワーアップ事業

テーマ 言葉を通して豊かにつながる理科学習

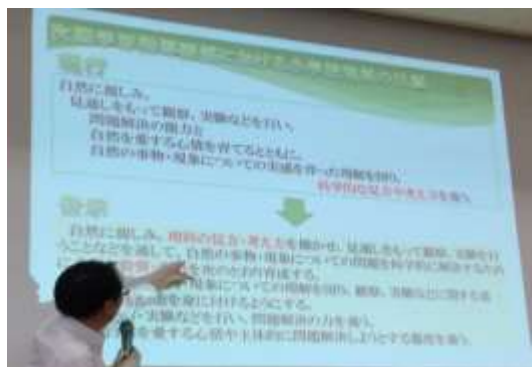
鳥取市立稲葉山小学校

## ○取組の目的と概要

- 昨年度の校内実践および研修会での学びをもとに、東中学校区をはじめとした地域の教師に理科学習に対する理解を広め、指導力の向上を図っていく。
- 理科学習の流れと構造を教師及び児童に定着させることを通し、児童の学力及び自己効力感を高める。

## ○取組の具体

### ◇鳴川教科調査官に学ぶ



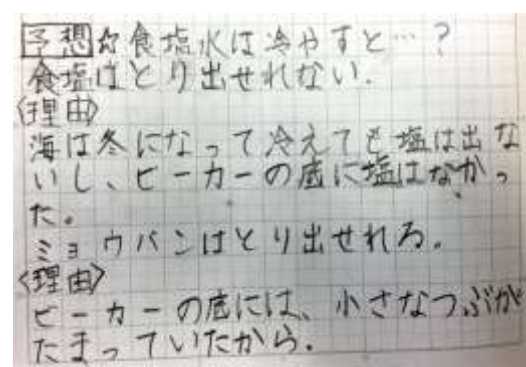
年3回、計6回の講演会で新学習指導要領のポイントや具体的な授業イメージを学んだ。

### ◇公開授業研究会



年間5回、理科公開授業研究会を開催した。

### ◇変わってきた児童のノート



根拠をもった予想やふりかえりが書けるようになってきた。

### ◇先進校視察



和歌山大学教育学部附属小学校、熊本県山鹿市立稲田小学校にて授業を参観し、ゴールイメージをもった。

### ◇担当地域校をはじめとした研究会に参加



担当地域である八頭町立八東小学校の授業研究会のほか、他のパワーアップ拠点校の研究授業に参加した。

### ◇学校 WEB ページでの情報発信



授業の様子を学校WEBページの「理科日記」で伝えることができた。



## ○取組の成果

- ・和歌山大学教育学部附属小学校の研究会交流や研究開発校の熊本県山鹿市立稲田小学校視察を通して本校職員のゴールイメージを強化できた。
- ・予想を立てたり、ふりかえりをさせたりすることを学習活動の中に意識的に取り入れた。その結果、先行学習や生活経験をもとにした根拠をもった予想やふりかえりが書けるようになってきた。
- ・理科教育パワーアップ事業拠点校の教師がつながり、研修会や情報交換を行うことを通して、教材研究の質を高め、学習指導に活かすことができた。
- ・学校の取り組みを学校WEBページで発信した。「理科日記」や「パワーアップ事業」のサイトに多くのアクセスをいただいた。
- ・新学習指導要領改訂の時期を迎え、文科省教科調査官を招聘しての研修会では、鳥取市小学校教育研究会メンバーの参加をいただいた。県教育センターの専門研修会では本校を会場として、筑波大学附属小学校佐々木昭弘教諭の授業を参観し、研修することができた。

## ○課題と今後の方向性

- ・対話的に学ぶには、児童の共通体験や共通した知識の基盤が大切なことがわかってきた。事前アンケートにより児童の実態を把握したり、単元の導入時に共通の実体験を行ったりすることが必要である。
- ・理科では協働的問題解決が重要だとわかってきた。具体的な姿とその手立てを教師が意識し、学習に活かしたい。